

授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代イギリス文学・文化演習 e	志渡岡 理恵	アンケート回答者が20名で半数弱ではあったものの、すべての項目で高い結果を得ることができてよかった。特に、受講生が自分の成長を感じることができて、授業に満足してくれたようで嬉しい。 演習の授業のため、受講生に担当箇所のプレゼンテーションをしてもらい、それに対して他の受講生と教員がコメントするという形式で進めたが、質の高いハンドアウトを用意してくる受講生が多かった。他の受講生の優れた発表から学び、切磋琢磨して成長していく姿が見られた。
現代アメリカ文学・文化演習 a	深瀬 有希子	アンケートへのご協力をありがとうございました。かなり早いスピードで320ページにわたる小説を、しかもノーベル文学賞受賞作品を読みきくという作業に、みなさん、努力してついてきてくれたかと思います。自信をもって今後の授業に臨まれてください。
Intensive Reading a	村上 まどか	最もレベルの高い学生らしく、成績はほとんどの人がAを取っていたのだが、「進み方が速すぎる」「教材が失敗」「何を言っているのかさっぱり」という声も上がっていた。確かに読みづらい箇所もあるテキストではあったが、英文科学生にはこのぐらい読みこなせることを期待したい。説明するやり方は、工夫しようと思う。
近代イギリス文学・文化演習 e	諏訪 友亮	受講生の皆さんへ 前期の授業、お疲れさまでした。 就職活動しながら毎週の課題をこなすのは大変だったのではないかと思います。 詩のことは難しいけれど、その分、見返りもあるものです。その時は分からなくても、時間が経つにつれて分かってくることはよくあります。不思議だな、変だな、分からないけど良かったな、など、そうした気持ちを抱えつつ、この先も詩に触れていってもらえると嬉しいです。 期末ペーパーは全体的によく書けていました。様式についての理解が足りなかった人はもう一度確認しておきましょう。卒論の様式は決まっています。引用や参考文献の書き方等々、その様式に合わせて書けるように練習しましょう。また、無断引用や剽窃が疑われたペーパーは大幅減点しています。引用する際は必ずどこから引用したか明示しましょう。 では卒論がうまく書けますように。
近代アメリカ文学・文化演習 a	稲垣 伸一	各グループがよいプレゼンテーションを目指してよく準備をしてくれていたと思います。そのなかでもいくつかのグループは、選んだテーマについて調べたことをただ並べるのではなく、構成を練って興味深い発表をしていました。 調べた内容を自分で十分に消化して、独自の発表にまとめていく作業は難しいことですが、うまく進むとともに楽しいことでもあります。この授業で経験した調査から発表へまとめていく作業が今後何かに役立つことを願っています。
多読演習	諏訪 友亮	受講生の皆さんへ 前期の授業、お疲れさまでした。 毎回の読書は大変だったかもしれませんが、ですが、最終的に英語の本を読んで楽しめたなと思える人は、この授業に向いていたと言えるでしょう。 初回の授業でお知らせしたとおり、この授業の要は毎週の読書記録にあります。マラソンに似た、読書の長い道のりを走りきることに意味があります。うまく走れた人は、ある程度のレベルの英文を苦手意識なく読みこなせるようになったでしょう。うまく走れなかったなという人は、日本語でも良いので、まずは本を読むことから始めてみましょう。 語彙を増やす、文法と構文を理解する、というのは本来多読とは別の作業です。しかし、語彙や文法の理解があって、初めて英文をすいすい読めるようになるのも確かです。無意識に定着することを目指して、語彙と文法も並行して勉強してもらえればと願います。 評価は告知の通り、毎回の読書記録、授業内の課題の結果をもとにした総合評価です。読書記録の提出が少なかったり、感想が不十分だったりした学生の評価は低くなっています。 この先も楽しく英文を読める時間を設けてくれればと願っています。
卒論セミナー a	村上 まどか	確かにこの授業科目（というか卒論ゼミ）は、このアンケートに答えにくいのですが、13人中2人しか回答しなかったのは、少々さびしいものがあります。答えてくれた学生さん、どうもありがとうございます。

[2019（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	猪熊 作巳	作業量の多いタフなコースでしたが、総じてよく努力してくれたと思います。
Paragraph Writing a	西野 方子	ルールを意識しながら英語で文章を書くということは、おそらくほとんどの受講生にとって新たなチャレンジだったと思います。そのため丁寧に進めようとしすぎて、スピードは少しゆっくりと感じたかもしれません。進度に関して、みなさんともっと相談しながら決められたらよかったですと思います。 前期で学んだことを後期にも活かしてもらえたら嬉しいです。半年間ありがとうございました。
Paragraph Writing a	深瀬 有希子	アンケートのご協力をありがとうございました。週二回の授業で大変なこともあったかと思いますが、で全体的に真摯に授業に臨まれていたと思います。何回か書き直すうちに、具体的な内容をもったパラグラフが書けるようになったかと思っています。後期も着実に努力を重ねていってください。期待しています。
Paragraph Writing a	諏訪 友亮	受講生の皆さんへ 前期の授業、お疲れさまでした。 ほぼ全員が計5回の課題を提出でき、担当者としても嬉しいです。 反省点としては、パラグラフ・ライティングという科目名に引きずられず、段落のみならずセンテンスレベルでの理解を進めてもらえるような工夫をもっとすれば良かったと考えています。 最後に、授業内で何度もした質問を思い返してみましよう。パラグラフに必要な3つのセンテンスは？そのセンテンスを始めるための決まり文句は？ヘディングの書き方は？段落の初め、行と行の間はどれくらいのスペースを空けなければなりませんでしたか？これらの質問にうまく答えられなかった人は、もう一度テキストを読んで復習しておきましょう。この問題は入試には出ないけど、人生に出ます。
Basic Grammar a	志渡岡 理恵	アンケートの回答率が100パーセントであることから分かるように、学ぶ姿勢が優れたクラスだった。習熟度が一番高いクラスだったので、指名するとスムーズに回答が返ってきた。とはいえ、やはり定着していない文法事項が各自あり、それを自覚することがさらなる学習への意欲に繋がったのではないかと思われる。 文法の確認が目的の科目ということもあり、授業の進め方が単調になりがちだった点が反省点である。Basic Reading との住み分けを考えながら工夫していきたい。
Basic Grammar a	島 高行	文法の基礎を確認してもらえればよかったです。 皆さんよくがんばりました。 もう少しテキストを読み進めたかったし、関係詞に時間を賭けられなかったのは残念でした。
イギリス文学・文化講義 c	土屋 結城	物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像や当時の社会についての理解を深めることを目的とした授業であるが、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.55~4.82といった評価を得た。概ね授業の内容、目的についての理解は得られたように思う。今後の改善としては、自身の成長実感について、さらに専門的に学びたいと思うかについての評価が低いので、参考資料（図書館で手に入るものやネット上での信頼できる資料）を授業の早い段階から紹介し、学生の事前事後学習やさらなる専門の学びにつなげられるようにしていきたい。
中世イギリス文学・文化演習 c	大関 啓子	アンケート回答が少ないので、全体の意見はわかりませんが、トルキンの中世イギリス文学者としての面だけでなく、英国の父親像のようなものが、伝わったことはよかったですと思います。スピードは確かに遅かったので、読んでもらう方法を今後は改善します。
現代アメリカ文学・文化演習 e	佐々木 真理	有名な英語のスピーチを読み、背景を押さえつつ、スピーカーの主張について分析し考察したうえで、自らの意見を英語で書き、試験として英語のスピーチの発表する、という授業のやり方は、学生の皆さんにとっては大変な内容だったのではないかと思います。最後までよく頑張って取り組んでこられたと思います。最後のスピーチもそれぞれ工夫した見事なプレゼンテーションで素晴らしいものでした。

[2019（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
女性と言語文化	村上 まどか	みなさん、自分が女性であることを前提にして身近な言語の問題を考えるきっかけになったようで、よかったですと思います。日本語と英語の両方の感性を磨いてください。
Introduction to TOEFL	宮下 いづみ	みなさま、アンケートへのご協力をありがとうございました。今後ますますTOEFLなどに慣れて、高得点できるようにテキストは活用してくださいね。いただいた嬉しいご評価に、ますますこちらも工夫が必要だと認識いたしました。また大学でお会いするのを楽しみにしております。
英語学概論 a	猪熊 作巳	特に学期後半にかけて高度な内容になり、苦勞した学生が多かったようですが、全体として真摯に取り組んでくれた跡が見られました。授業進度については、「早すぎる」「ちょうどよい」「やや遅い」が混在しており、全ての参加者を満足させることは困難ですが、学生の理解度に注意しながら無理のないペースを心がけます。
時事英語演習	砂田 緑	英語でニュースを読む習慣が身に付くように工夫をしたので、「読解力がついた」等、読むことに関して肯定的なコメントがあった。その一方、「ニュースの内容に関してディスカッションをしたい」というコメントもあったので、学生同士で話し合っ読んだ内容を深めていくような活動を今後取り入れていきたい。
プレセミナー	佐々木 真理	この授業の目的である、論文の書き方について、よく理解できたとのコメントが多かったので安心しました。毎回、論文の構成や書き方について説明したあと、グループワークも取り入れるようにしましたが、そういった作業やグループでのプレゼンテーションを通して、自らの意見をまとめて他者に伝える能力の育成につながっていったのではないのでしょうか。
プレセミナー	島 高行	皆さんの発表、レポートはそれぞれよくがんばったと思います。卒論につなげるように、大事にしてください。
プレセミナー	深瀬 有希子	アンケートへのご協力を有難うございました。現代思想の難しい内容であったかと思われませんが、みなさん努力されており、レポートも全体として充実していました。本授業で扱った内容は、後期の演習授業やゼミで深めていく予定なので、ご興味があればそちらにもご参加ください。
プレセミナー	猪熊 作巳	率直に言って欠席・遅刻の多いクラスでしたが、期末の課題では非常に独創的な試みもいくつか見られました。今後の学業・研究に少しでも生かしてもらえればと思います。
プレセミナー	大関 啓子	少ない回答数ですが、この時間が将来について考える機会になったことはよかった！「指定された文献」とは、テーマの異界についての英文学作品のことでしょうか？渋谷の図書館だけでも沢山あるのですが、作品を読まないで、検索しただけでは、出てこなかったのでしょうか。「勉強しないと、乞食になる」と言う恩師の言葉を編集しないで伝えましたが、それは差別用語かな？
アメリカ文学・文化講義 a	稲垣 伸一	スピリチュアリズムを中心に複数の要素と組み合わせる授業だったため、授業の内容全体を整理して理解することは多少難しかったかもしれませんが、それにもかかわらず、履修した多くの学生が毎回熱心にリアクション・ペーパーを書いて提出してくれたため、教員の側も毎回楽しんで授業を進めることができました。この授業が19世紀アメリカのある側面を理解するのに少しでも役に立ったことを願っています。
卒論セミナー a	島 高行	回答をありがとう。 後期もみんながんばって生きましよう。
卒論セミナー a	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.67~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、事前事後学修を充実させるために、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論のに向けてのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。

[2019 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー a	深瀬 有希子	アンケートへのご協力を有難うございました。忙しいスケジュールの中、3回の発表を行ったこと、高く評価しています。後期も期待しています。
Intensive Reading a	土屋 結城	英語でのリーディング能力向上を目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.41~4.59の評価を得た。授業の目的、内容に関して理解を得られたと思う。一方で、学修時間については課題が残った。授業の性質上、予習時間を増やせるような取り組みを今後心掛けたい。
英語学演習 a	村上 まどか	最大人数の演習はやりにくかったが、皆、おおむね授業内小テストも、期末テストもよくできた。レベルの高い学生は「和訳」は必要ないと思うかもしれない(なので和訳はテストに出さない)が、あまりレベルの高い学生が内容把握をするためには、和訳は必要。今もそうしているつもりではあるが、言語学的内容や解説も多くとりいれようと思う。
卒論セミナー a	稲垣 伸一	この授業では夏休み以降に始める卒業論文執筆の準備を進めてきました。履修者は全員、とても熱心に課題に取り組んでくれたと思います。この調子で夏休み以降、提出までがんばって卒論の執筆に取り組んでください。
卒論セミナー a	志渡岡 理恵	すべての項目で高い結果を得ることができてよかった。卒業論文を執筆するにあたり必要な知識を講義する回、ディスカッションしながら論文を批判的に読む回、個人面談、各自の卒業論文についてプレゼンテーションする回の4種類で授業を構成した。受講生からは、卒論に真摯に取り組む姿勢と熱意が感じられた。 個人面談の時間をもう少し長く取りたいが、全員で情報・意見交換する時間も重要なので、バランスを考える必要がある。後期も順調に卒業論文を進めていけるように指導したい。
アメリカ文学史 b	佐々木 真理	この授業の目的である、アメリカ文学の全般的な知識の修得に関して、コメント等を拝見すると達成できたようで安心しました。大人数での講義なのでどうしても授業中の私語が多くなってしまいますが、本年度から座席を指定したところ、私語が大幅に減少したので、静かに授業を進めることができてよかったのではないかと考えています。
特別講義	諏訪 友亮	受講生の皆さんへ 前期の授業、お疲れさまでした。 授業の内容は難しかったかもしれませんが、ほんの少しでも皆さんのなかに引っ掛かりだったり問題意識が芽生えれば嬉しいです。 講義形式の授業ということで、聞くだけ、観るだけの時間は多かったです。ですが誰かがコメントにも書いてくれたように、ただ映画を観るだけでは駄目なんだということが分かってくれれば、この授業の目的は達成されています。メディアから流れてくるものに、どうやって能動的に、思考力を働かせて関わられるのか。その事の大切さに気付いてもらえれば、この先もたくさん作品を観たり読んだりするための素地ができたと言えます。授業で扱った専門用語、キーワードについては、自分の(心の)メモを書いて、いつでも引き出せるようにしておきましょう。 『ブレードランナー』を起点に、さまざまな作品を観ていってくれればと思います。
イギリス文学・文化講義 a	大関 啓子	半期の短い期間で伝えきれない膨大なヨーロッパの歴史を、過去・現在・未来へと、様々なジャンルに亘って、「アーサー」を覗き穴として見る、ということでも欲張りな科目で、駆け足でぶっ飛ばしました。その足りない点を皆さんのレポートが、補ってくれました。うれしく思います。英文科だけでなく、国文・美美・短大の皆さんに、今年は渋谷4大学連合で、国学院からも参加して下さい、バラエティーに富んだ楽しい授業でした。ありがとうございました。
卒論セミナー a	猪熊 作巳	ひきつづき卒論完成に向けてがんばりましょう。
卒論セミナー a	佐々木 真理	卒業論文の完成に向けて、課題をひとつひとつクリアして、学期の最後には皆さんアウトラインを完成させることができました。引き続き、後期もがんばっていきましょう。

[2019（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
近代イギリス文学・文化演習 c	島 高行	イギリスの文化や社会に作品を通して関心を持ってもらえればうれしいです。 発表は本来は個人単位でやってもらいたいのですが、受講生が多くグループによる形にしました。 今後考えます。 回答をありがとう。
アメリカの文化と社会	深瀬 有希子	アンケートへのご協力をありがとうございました。海外からの招聘講師による授業という初めての試みに参加していただき、ありがとうございました。皆さんからのコメントを参照に改善に努めたいと思います。また、みなさんのコメントをブラケット先生にもお伝えしておきます。引き続き充実された学生生活をお過ごしください。
イギリス文学史 a	島 高行	回答をありがとう。 関心を持った作品があれば、どんどん読んでみてください。 また聞こえにくかったところもあったようで、失礼しました。 一限からの授業で大変でしたでしょうか、後期もがんばってください。
近代イギリス文学・文化演習 a	土屋 結城	シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』を読み、作品の読解並びに19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。アンケートの結果では、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.60~4.90の評価を得た。また学修時間も比較的確保されていたようである。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、双方向性を高めるために学生のディスカッションなどに積極的に関わっていくことが挙げられる。
Basic Reading a	大関 啓子	毎週のreadingの小テストはやってよかったとの評価ですが、今後もどうぞ自分でreadingを続けて下さい。また私の発言についての件、安心して下さい、紛失した新聞は2日分とも、その後無事に返却されたこと、図書館から連絡がありました。よかった！「雑談」の件、日本を外国人記者が見たテキストの内容ですので、理解を深めるコメントが長すぎたこともあったかもしれませんが。いろいろなものに興味をもって、沢山の英語をお休みに読んでください。
Basic Reading a	諏訪 友亮	受講生の皆さんへ 前期の授業、お疲れ様でした。 お茶という日々飲むものの背後に、これほど深く広い世界があったんだということが、英語を通して少しでも感じてもらえたら嬉しいです。 授業に出てきた単語は、中には難しいものもありましたが、大部分は大学入試でカバーされているものです。語彙に自信がないな、と思った人は、大学入試や資格試験（TOEIC、TOEFLなど）向けの単語集を1冊（難易度は中～上級）に決めて、それをやりこむ（何周も読み、派生語も満遍なく覚える）ことから始めてみてください。大学の4年間は、基本的な語彙に限って言えば、大学入試レベルの復習を何度も行うことであり、僕もそうでした。コツコツやるしかないんで、1年生の終わりまでに、2年生の～までによりきろうという明確な期限を設けてやれば、見違えるほど英語力が増しているはずですよ。
Intensive Reading a	稲垣 伸一	小説を原書で読むことはなかなか難しいことですが、履修者の皆さんのほとんどが熱心に取り組んでくれたと思います。 ただ、授業で辞書を持参することを求めましたが多くの履修者が持参していなかったため、辞書の引き方を授業中に確認することがあまりできませんでした。リーディングでは辞書を活用して自分で疑問点を解決できるようにすることが必要です。地味な作業ですが、辞書の活用法を意識して身につけるように努力してください。
現代イギリス文学・文化演習 a	西野 方子	イギリスの現代小説を一冊読むという、なかなか大変な授業だったと思います。みなさんの意見や小説の解釈はとても鋭く、気付かされたことや教えてもらうことが多くありました。この授業が小説やその他創作物を解釈することをより楽しんでもらうきっかけや、また専門に学ぶきっかけになったのなら嬉しいです。半年間ありがとうございました。
卒論セミナー a	大関 啓子	卒論以外のいろいろな発見があって、よかった！ 8月のゼミ合宿で、私からだけでなく、ゼミ生同士お互いに影響しながら、多くのものをつかんでください。楽しみにしています。

[2019（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学演習 e	野村 美由紀	難しい内容の教科書で、申し訳なかったのですが、皆さん、頑張って、内容をよくまとめて、発表して下さいました。授業にも協力的で、感謝しています。分かりやすい授業になるように、努力していきたいと思っております。
アメリカ文学・文化講義 c	難波 雅紀	<p>授業レポート（リアクション・ペーパー）や期末レポートを総合しての皆さんへのコメントは次のとおりです。</p> <p>[コメント]</p> <p>①アイデンティティという言葉が何を意味しているのか、その理解を十分持つことがまず重要です。</p> <p>②簡単に言えば、「自分が何ものであるかを証明するもの」となるのですが、それはたった一つであるとは限りません。ひとりの人間は様々な側面を持っていますから、側面の数だけアイデンティティがあると言っても間違いはありません。</p> <p>③注目して欲しいのは、そうしたアイデンティティが、すべて同一平面上に横並びに存在しているものなのかという点です。アイデンティティには階層があって、あるアイデンティティが別のアイデンティティの部分であったり、具体例であったりする場合があります。</p> <p>④アイデンティティ間の関係性や階層構造が見えてくると、最上位に位置していると思われるアイデンティティが、その人間にとって極めて本質的なものだと分かってきます。</p> <p>[まとめ]</p> <p>人間にとって本質的なアイデンティティとは何か。それは、多分に精神的であり、イデオロギー的であったりします。そうした観点から自分とは何かに関する考察を深めることが、この授業で一貫して皆さんに求めてきた知的、精神的営為でした。本当の自分は自分がいちばん知らない。だからこそ、自分とは何かを意識的かつ主体的に探求する姿勢は、生きていく上で極めて重要なのだと思います。</p> <p>以上のような理解がどこまで皆さんひとりひとりに定着しているのかを確認するために、学期末には皆さん自身のアイデンティティについて、レポートを書いてもらいました。成績評価は3回の授業レポートと学期末レポートで総合評価しました。成績評価の方法は以下のとおりです。</p> <p>【成績評価の方法】</p> <p>①期末レポートの点数：素点（100点満点）×0.7 +A=100点 A=85点 +B=80点 B=75点 +C=70点 C=65点 -C=60点 D=50~0点 * ④成績評価における評点と得点の関係とは異なる。</p> <p>[評価の内訳]</p> <p>1. アメリカン・アイデンティティの具体例 2. 自分自身のアイデンティティの具体例 3. 1と2の比較 4. 比較による質的な相違または類似 5. 字数が2,600以上 6. 引用文献および参考文献の明示</p> <p>○評価ルール④：上記の1~6がすべて揃って75点 ○評価ルール⑤：上記の1~6が一つ欠けるにつけ5点マイナス ○評価ルール⑥：その上で、上記1、2、3のそれぞれについては記述内容の精粗により5点を加減、上記4については記述内容の精粗により5~10点を加減</p> <p>②授業レポートの点数：計3回で各回10点=合計30点（満点） +A=10点 A=8.5点 B=7.5点 C=6.5点 D=5点</p> <p>[評価の内訳]</p> <p>1. 課題に内容に関する理解 2. 課題に対する自分の主張 3. 主張の論理性</p> <p>○評価ルール④：上記の1~3がすべて揃って7.5点 ○評価ルール⑤：上記の1、2、3を総合した記述の精粗により1~2.5点を加減または減点</p> <p>③得点：①（70点満点）+②（30点満点）=100点（満点） ④成績評価 +A：100~91点 A：90~80点 B：79~70点 C：69~60点 D：50~0点</p>
女性と英語圏文学 a	志渡岡 理恵	アンケート回答者が少なめだったが、すべての項目で高い結果を得られてよかった。1回の授業で1人の女性作家を取り上げた。「多くの女性作家の作品を知ることができてよかった」というコメントが寄せられていたので、今後この構成で進めていこうと思う。1回の授業で1人の作家の生涯と作品を扱うのは情報量が多く、受講生も大変だと思うが、授業をきっかけにして、興味をもった作家やテーマについてリサーチや考察を重ねてほしい。